

図2 鳥取県のヒラメの漁獲量と金額の推移

表1 平成24年漁業種類別ヒラメの漁獲量と金額

	漁獲量		金額		単位:円 /kg
	単位:kg、(%)		単位:千円、(%)		
小型底びき網	28,761	(52)	20,466	(26)	712
釣	12,170	(22)	30,306	(38)	2,490
沖底	6,560	(12)	10,066	(13)	1,535
さし網	6,144	(11)	16,454	(21)	2,678
小型定置網	671	(1)	808	(1)	1,204
その他	1,143	(2)	732	(1)	643
	55,449		78,833		1,422

表2 鳥取県における直近10年間のヒラメの単価の推移

年	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	直近10年平均
単価(円/kg)	1,874	1,797	1,925	1,527	1,327	1,308	1,544	1,121	1,377	1,422	1,522

【稚魚の発生状況及び成長】

- ・鳥取県中部海域における平成24年のヒラメ稚魚分布量の最大値は9万尾と、平成19年以降では平均的な数値となった。しかし、近年で最も稚魚分布量の多い平成18年の2,778万尾に比べると非常に低い数値であり、近年のヒラメ稚魚は低い水準でしか分布していない状況が続いている。
- ・平成24年におけるヒラメ当歳魚の着底から9月までの成長は、7月以外、直近5カ年平均よりおきかった。

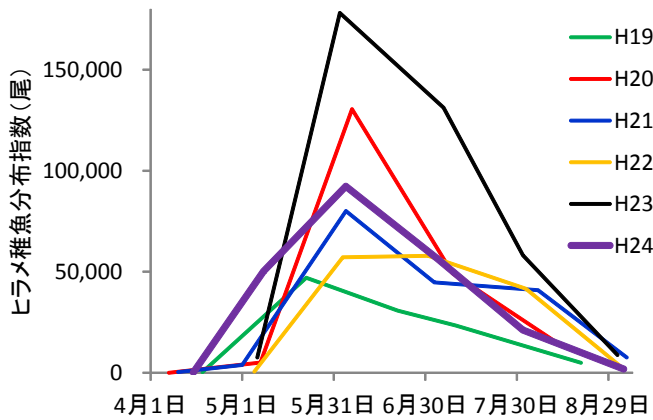


図3 鳥取県中部海域におけるヒラメ当歳魚の分布量の推移(平成19~24年)

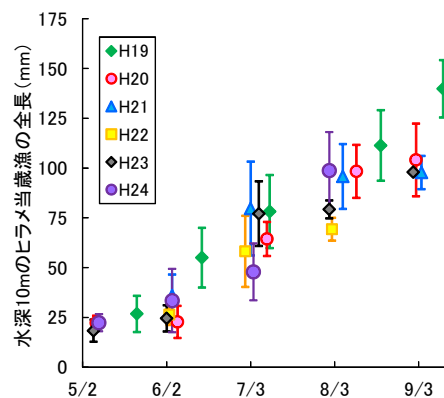
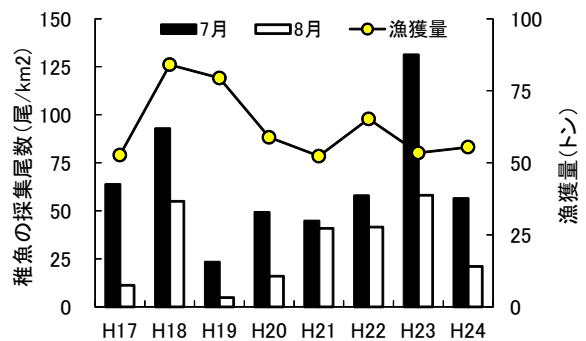


図4 鳥取県中部海域におけるヒラメ当歳魚の成長の推移(H19~24年:水深10m)

【平成25漁期予測】

- ・小型底びき網の漁獲主体である1歳魚(平成24年級群)の発生量は悪いものの、2歳魚(平成23年級群)、釣り、刺網を対象とする3,4歳魚(平成21,22年級群)の稚魚の8月の発生量は、近年の平均以上であるため、漁獲量が若干増加すると考える。

図5 鳥取県中部海域におけるヒラメ当歳魚の7,8月の分布量と漁獲量の推移



## ②ナガレメイトガレイ

### 【漁獲量】

- 平成 24 年の漁獲量・金額は 15 トン・11 百万円で、平成 23 年の 43 トン・37 百万円から減少し、過去最低の水揚げとなった。

### 【稚魚の発生状況】

- 平成 24 年のナガレメイトガレイの着定稚魚の発生量は、平成 19, 23 年に次いで悪く、非常に低い発生量となった。

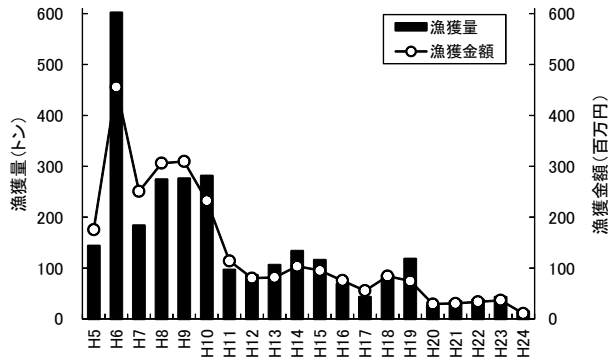


図 6 鳥取県のナガレメイトガレイの漁獲量と金額の推移

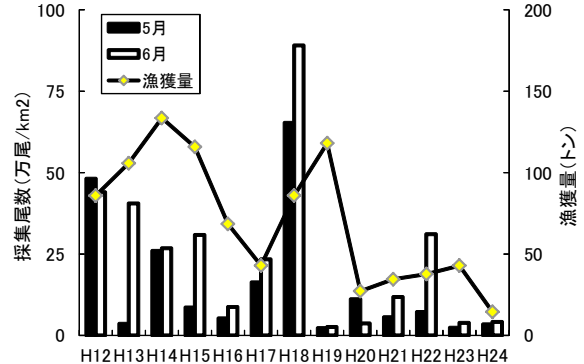


図 7 鳥取県中部海域における 5,6 月のナガレメイトガレイ稚魚の分布量

### 【平成 25 漁期予測】

- 漁獲主体である 1 歳魚に当たる平成 24 年の稚魚の発生状況は、平成 19, 23 年級群に次いで悪いことから、漁獲量は昨年と同様にかなり少ないと考える。

## ③マダイ

### 【漁獲量】

- 平成 24 年の漁獲量・金額は 202 トン・135 百万円で、平成 23 年の 184 トン・108 百万円から増加した。

### 【稚魚の発生状況】

- 鳥取県中部海域におけるマダイの稚魚の発生状況は、平成 21, 22 年級群は良好であったが、平成 23, 24 年級群は悪い状況であった。

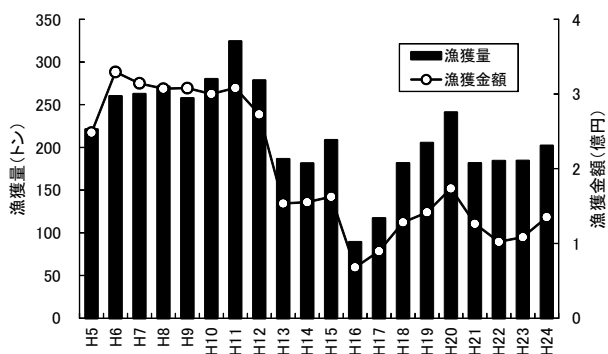


図 8 鳥取県のマダイの漁獲量と金額の推移

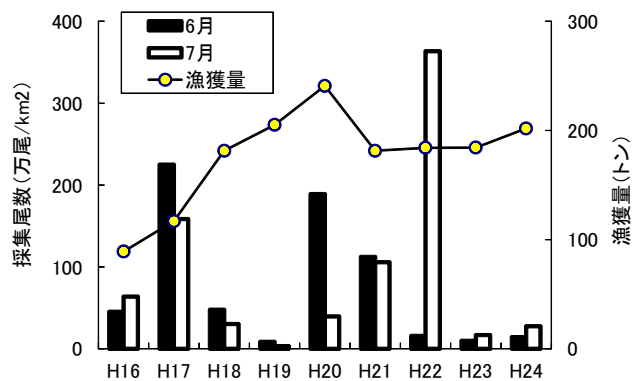


図 9 鳥取県中部海域における 6,7 月のマダイ稚魚の分布量と鳥取県のマダイの漁獲量

### 【平成 25 漁期予測】

- 漁獲主体は 1~3 歳魚である。平成 25 年漁期は、平成 22 年級群の発生が良いが、平成 23, 24 年級群の発生が悪いから、漁獲量は減少すると考える。

#### 4) 考察

ヒラメは稚魚の発生状況は依然として少なく、今後の資源量は現状の水準で推移する可能性が高い。

ナガレメイタガレイについては、平成 23, 24 年の稚魚の発生状況が非常に悪いため、産卵親魚の減少が顕著であり、急激な資源量の増加は見込めない。

また、マダイについても、平成 23, 24 年の稚魚の発生が悪く、産卵親魚の減少による資源の悪化が懸念される。

#### 5) 残された問題点及び課題

経営が悪化している小型底びき網にとって、重要なヒラメ、ナガレメイタガレイの資源状況が低位であり、また、さし網での重要魚種のマダイについても資源量の減少の懸念がある。このため、資源管理がより一層重要な状況であり、モニタリングを継続することが必要である。